

15-6 近代的経済の真の科学の始まりと重商主義

「近代的生産様式の最初の理論的な論述——重商主義——は、必然的に、流通過程の表面に商業資本の運動として独立して現れる諸現象から出発し、したがってまた、ただ外観だけをつかんだ。なぜかといえば、一つには、商業資本は資本一般の最初の自由な存在様式だからである。また一つには、封建的生産の最初の変革期、近代的生産の成立期にさいして商業資本が及ぼす優勢な影響のせいである。近代的経済の真の科学は、理論的考察が流通過程から生産過程に移るときにはじめて始まる。利子生み資本もたしかに資本の太古的形態である。それなのに、なぜ、重商主義はこれから出発しないで、むしろこれにたいして攻撃的な態度をとるのか、これについてはもっとあとで述べるであろう。」

(大月版『資本論』④ P420F2-B1)